

Version 1.4.0.

CS3およびCS3+(製品番号60226および60216)用 ソフトウェアアップデート1.4.0の新しいオプションと機能

CS3用ソフトウェアバージョン1.4.0アップデートには、2019年のデジタル車両制御に向け、トラブルフリーの運転に必要な機能の計画的開発成果と、いくつかの機能追加と改良が含まれています:

- I すべての機関車と動力車でmfx+運転台を使用する
- II 新機能
- III ハイレベルユーザーのための追加

I すべての機関車と動力車で mfx+運転台を使用する

多くの種類の機関車／動力車用の運転台画面がゲームモード用にCS3に内蔵されています。多くの鉄道模型ファンより、これらの運転台画面をmfx+車両以外でも使用したいとの要望を頂きましたが、今回このソフトウェアバージョンから可能となりました。機関車／動力車に搭載されたデコーダーの種類(mfx、DCC、MM)には関係ありません。ただし、さまざまな操作を可能にする、燃料等の消費シミュレーションは、mfx+デコーダーを搭載した機関車／動力車でのみ可能です。

運転台の設定

“Lok Settings(機関車設定)”画面の“Set Up(設定)”タブで、mfx+プロトコル以外の車両でも新たに“Operation Mode(運転モード)”プルダウンメニューが有効になりました。選択肢の運転席の1つを選択することで、CS3の機関車コントローラに運転席ウィンドウを呼び出すことができます。これを行うには、CS3の右側または左側の制御コンソールに機関車を引き入れます。



そして下隅の赤い機関車ボタンを画面いっぱいドラッグすると、運転台が表示されます。モデルによっては、そのファンクションの組み合わせをその運転台に完全に表示できない可能性があることに注意してください。

II 新機能

まず最初に、多くの改善提案や将来の機能追加の要望を送って頂いたCS3のユーザーに感謝致します。以下の概要を見るとわかるように、今回それらのいくつかを実現することができました。

レイアウト図エディターのグリッド

レイアウト線図の編集画面にグリッドを表示できるようになり、レイアウト図を作成するときに個々の部品をこのグリッド上に配置できるようになりました。グリッド寸法も設定できます。最初はそこに入力されているデフォルト値のままで良いでしょう。グリッドは、メインメニュー項目“System(システム)”の下の新しいメニュー項目“Track Diagram(レイアウト図)”で設定できます。



このグリッド機能は編集時にオンとオフを切り替えることができます。ここで、CS3で以前に作成したレイアウト図でこのグリッド機能を使用できないことに注意してください。グリッドをオンにすると、古いレイアウト図の表示に避けられない不具合が生じる可能性があります。

ところで、レイアウト編集を終了するためのボタンは、編集メニューから削除されました。これは、メインメニューの“Edit(編集)”ボタンを再度押すことによって行って下さい。

異なる速度単位を設定する

速度表示は、時速(km/h)、(デコーダーの)スピードステップ、またはパーセンテージを選択できます。

速度計の最大値の設定に10を入力すると、パーセント表示が有効になります。スピードステップを表示する場合は、mfx車両には126を、MM車両には14を入力して下さい。DCC車両では、機関車設定タブの“Speed Levels(ノッチ)”で設定された値を使用する必要があります。このスピードステップ表示の時、速度計内の数値の前にドットが表示されるので時速(km/h)と識別できます。

他の数値を入力すると、速度表示は時速(km/h)になります。

丸型速度計の使用

CS2からCS3へ移行した多くのユーザーから丸型スピードメーターの要求があり、これもCS3で利用可能になりました。この表示は左右の制御コンソールでのみ可能です。

これを行うには、制御コンソールの下端にある赤い機関車ボタンを画面中央までドラッグして下さい。コンソールウィンドウはこの新しい表示形式に切り替わります。両方の制御コンソールをこの表示形式にすると、画面を殆ど占有してしまいます(右図)。



機関車の新しい画像

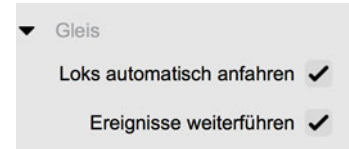
このアップデートで、CS3の機関車画像の数が2,000を超えました。登録済みの機関車に新しい画像を表示させるには、それらを手動で選択しなければならないことに注意してください。

機関車画像を使用するときによくある間違いについて注意してください：

- ・ 画像ファイルはCSにのみ保存され、デコーダーには保存されません。デコーダーは各画像の名前を記憶するだけです。機関車を登録すると、CSはその機関車データで指定されている画像名を検索します。
- ・ CS2とCS3はそれぞれ独自の画像ファイルを使用します。機関車画像が同じ名前で両方のCSに格納されている場合にのみ、両方のCSで機関車画像を表示できます。

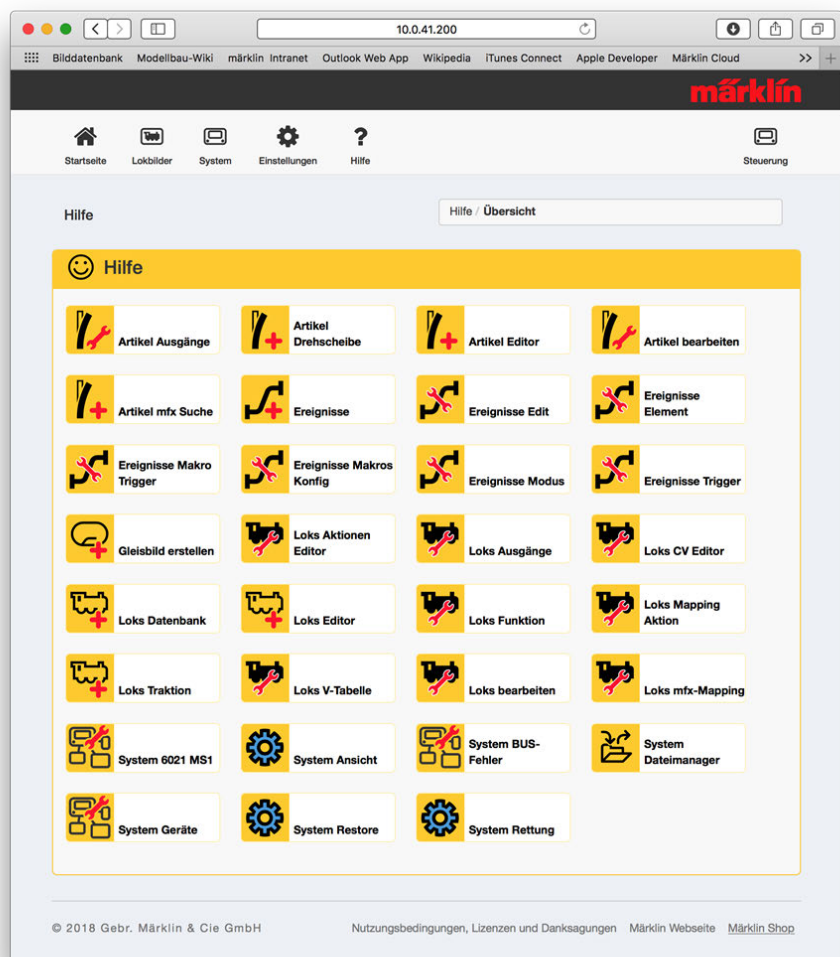
運転終了/再開時の新しいオプション

すべての機関車/動力車およびイベントが操作終了時に停止し、再開後にすべて復帰できるように、メニュー: System(システム) => CS3 => Track(運転)により設定できます。これを行うには、以前からある "Automatically Start Locomotives(機関車の自動発進)"に加えて、新たな "Continue Events(Ereignisse weiterführen=イベントの継続)"にもチェックを入れる必要があります。イベントの継続が選択されると、機関車の自動発進も必然的にオンになります。



Webブラウザによるヘルプ機能の表示

ルータで相互接続することにより、CS3内蔵の「ヘルプ」ファイルをPC、ノートPC、またはタブレットに表示できます。

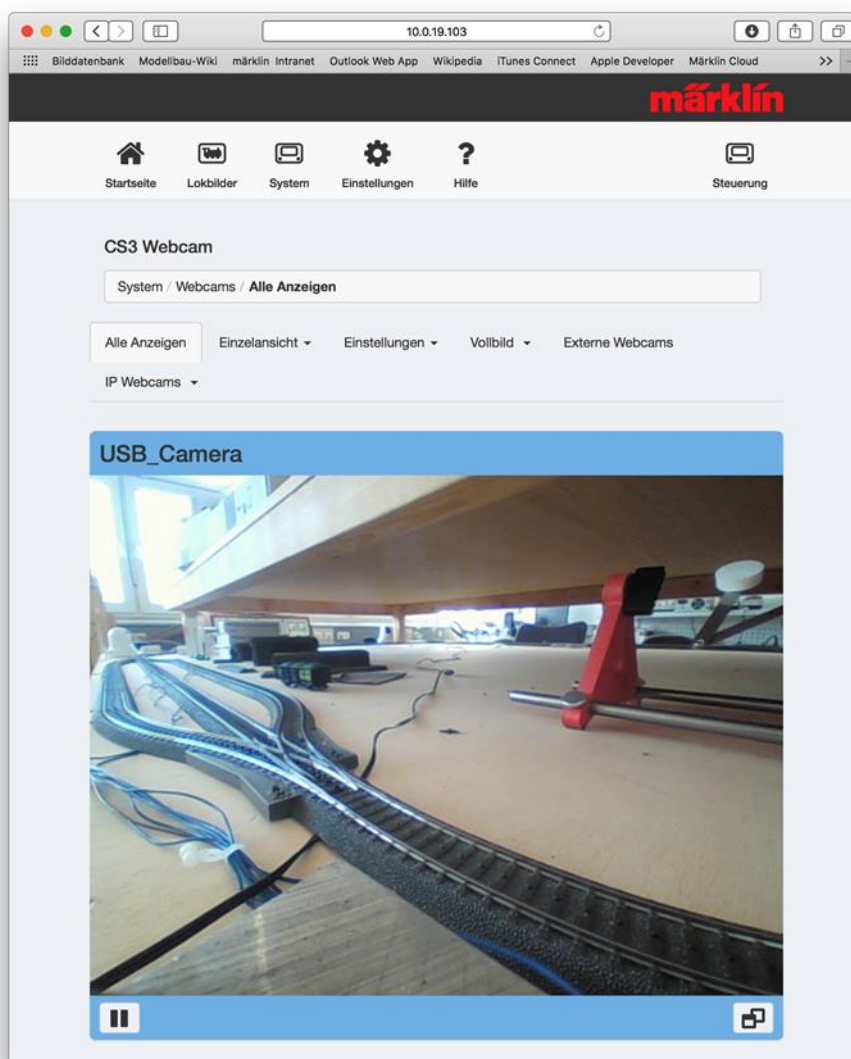


Japanese translation
rights reserved by
Märklin Store Osaka HRS

Gebr. Märklin & Cie GmbH
Postfach 860
D-73008 Göppingen
Germany

ビデオカメラを使用して走行シーンを映す

ルータで相互接続することにより、CS3は、PC、ノートPC、またはタブレット上のWebブラウザに呼び出されたUSBカメラまたはIPカメラからの画像を表示できるオプションを提供します。



原理的には複数のカメラをシステムに接続できますが、アクティブにできるUSBカメラは1台だけです。IPカメラは明らかにCS3のCPU能力の消費が少なくて済みます。したがって、IPカメラならば、複数台同時に使用することができます。

Japanese translation
rights reserved by
Märklin Store Osaka HRS

Gebr. Märklin & Cie GmbH
Postfach 860
D-73008 Göppingen
Germany

Ⅲ ハイレベルユーザーのための追加

CS3は、習熟したスペシャリストに、主にイベント処理に関する追加オプションを提供します。これらのオプションを使用するには、基礎となる数学およびコンピューター科学に関する知識とともに、そのようなプロセスおよびアルゴリズムの長年の使用経験が必要です。これら特殊分野の長年にわたる学習成果を簡単に紹介・説明することはできません。

これらのテクニックに慣れていない人は、操車場制御や閉塞・ルート制御などの基本的なテクニックに留めておく必要があります。より複雑なアプリケーションでは、ユーザーがそれに応じて複雑なプロシージャを考案および設計できることが不可欠です。ここは、メルクリンの顧客サービスでもサポートが難しい領域となります。エキスパートがチェックできるようにするには、複雑な手順を詳細に文書に記述する必要があります。しかしこれは非常に時間のかかる作業であり、その時間的コストは鉄道模型ファンの誰も支払う用意がないでしょう。したがって、Märklinカスタマーサービスでもここでは基本的なサポートしか提供できないことをご理解ください。

今回の新機能は、論理マクロを定義してそれらをイベントに組み込むというオプションです。以下の基本要素がここで利用可能です。

1. ANDマクロ: 特定の条件が満たされているかどうかを確認します。すべての条件が「真」の場合、プロセスは次のステップに進みます。オプションで、出力を反転することもできます(NAND)。これは、ひとつでも条件が「真」ではない場合にプロセスが進むことを意味します。
2. ORマクロ: 条件の少なくとも1つが「真」の場合、プロセスは前進します。ここでも否定出力(NOR)が可能です。
3. IF THEN ELSEマクロ: 条件が満たされると、プロセスは別の定義された手順に移動します。その条件が満たされない場合、プロセスはさらに別の定義済み手順に進みます。この関数はELSE分岐なしでも使用できます。

4. LOOPマクロ: 指定されたイベントが有効になるまで、またはそれらが有効である間、ループ(繰り返し)が実行されます。
5. RANDOMマクロ: イベントが調整可能なランダムな間隔で実行されます。
6. BRAKEマクロ: このマクロは、ブレーキモジュールのハードウェアなしで、機関車に設定された減速遅延値に従い赤信号の前に機関車を停止させるために使用されます。これを行うには、機関車が信号を行き過ぎる場合に備えて、制動区間、停止区間、および安全区間用のコンタクトが必要です。

私たちは、あなたのCS3の新機能探求が楽しいものになることを願っております。

Märklinサービスチーム一同